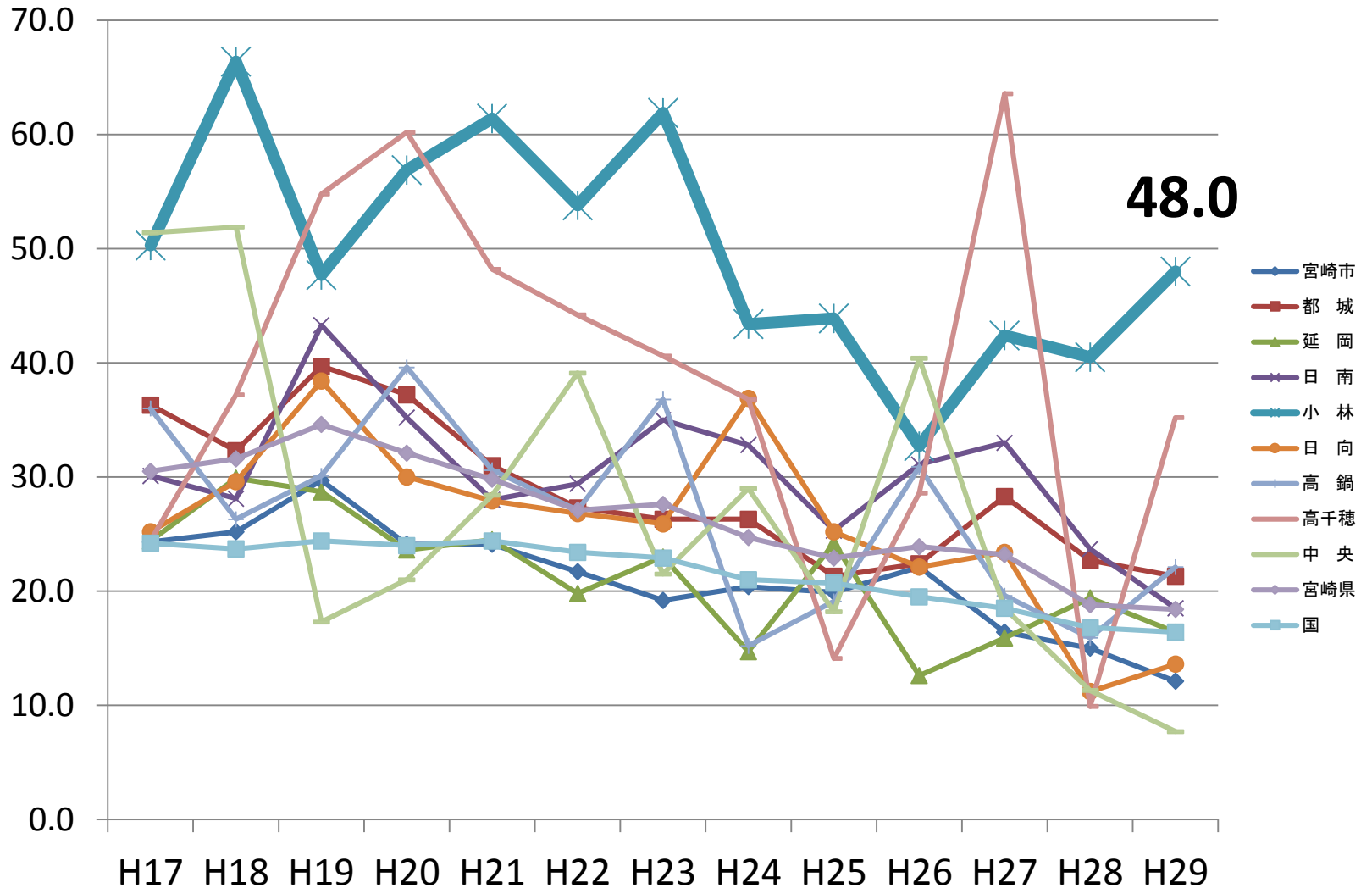


# 西諸地域における自殺未遂者の実態について ～自殺リスクアセスメントシートの分析を通して～

○川平陽子 湯浅宏美 後藤由佳  
又木真由美 和田陽市

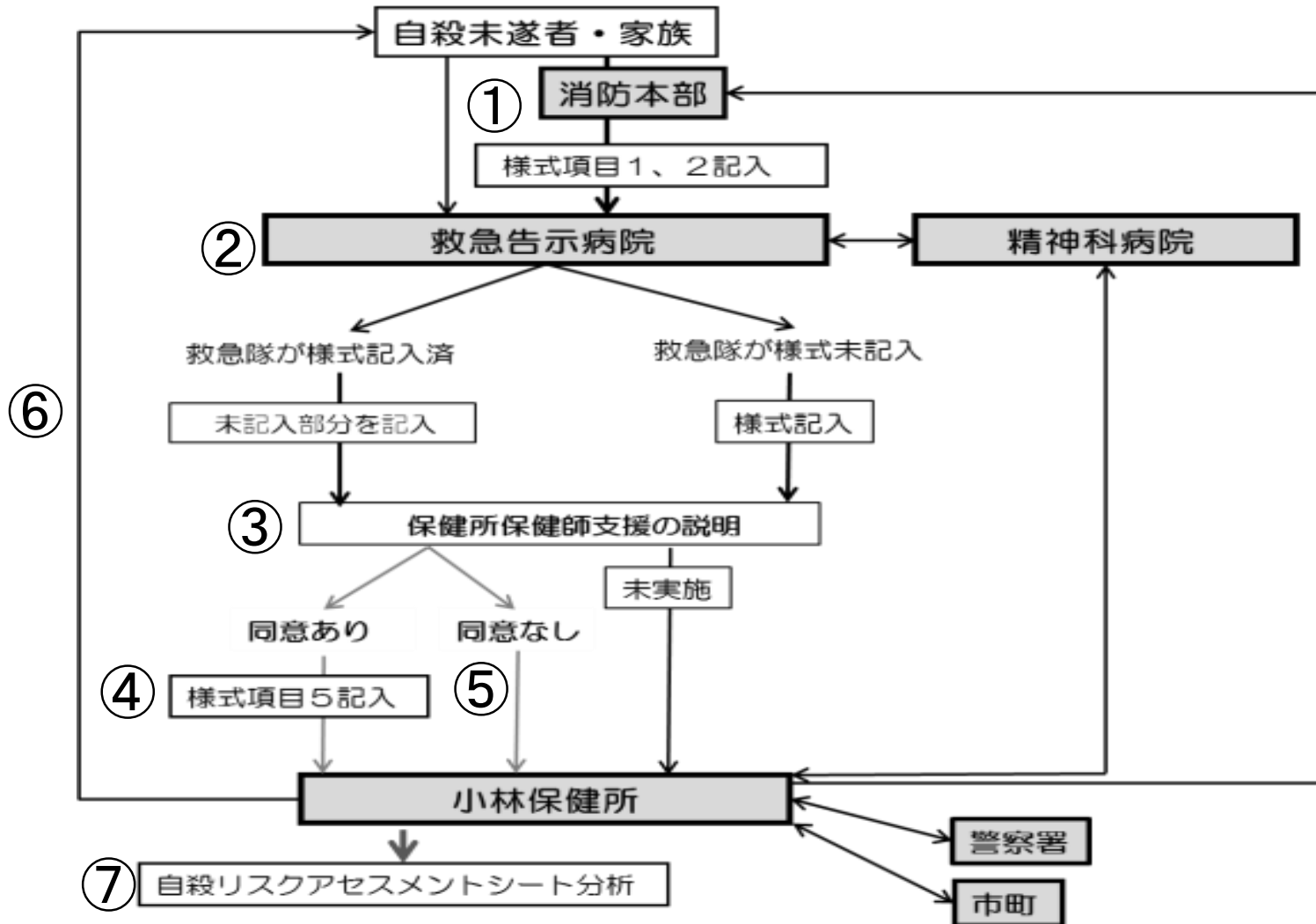
# はじめに

## 県内保健所別自殺死亡率(人口10万対)

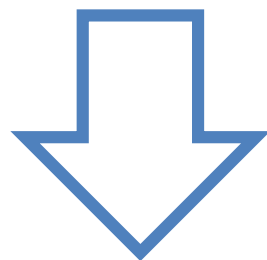


# 西諸地域自殺未遂者支援事業

対象：管内居住者（小林市・えびの市・高原町）で管内の救急告示病院を受診した者



平成30年度から、管内の救急告示病院を受診した自殺未遂者の全数把握が可能となる体制を整備

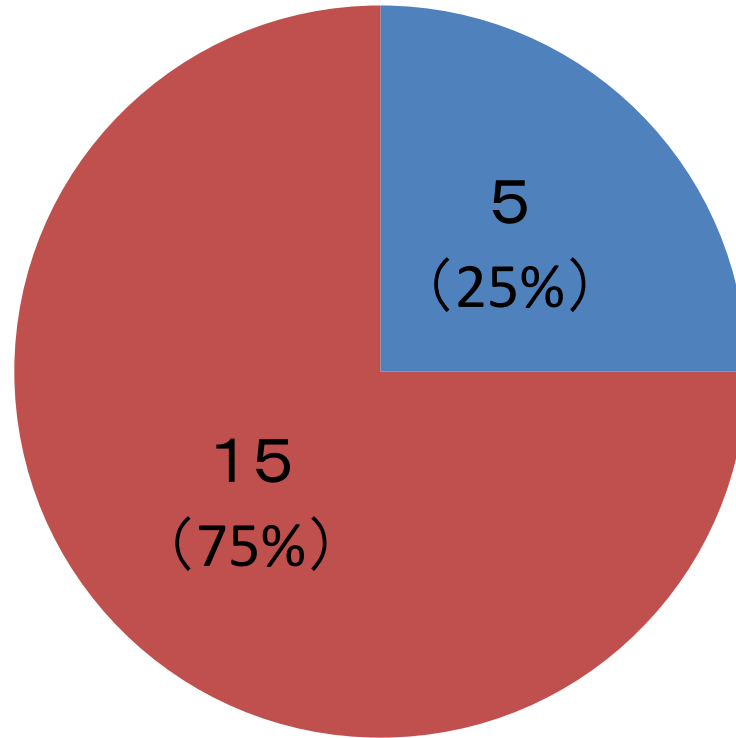


管内の自殺未遂者の現状分析と今後の取組について検討

分析事例：平成30年度に自殺リスクアセスメントシートの提出があった20例

# 結果

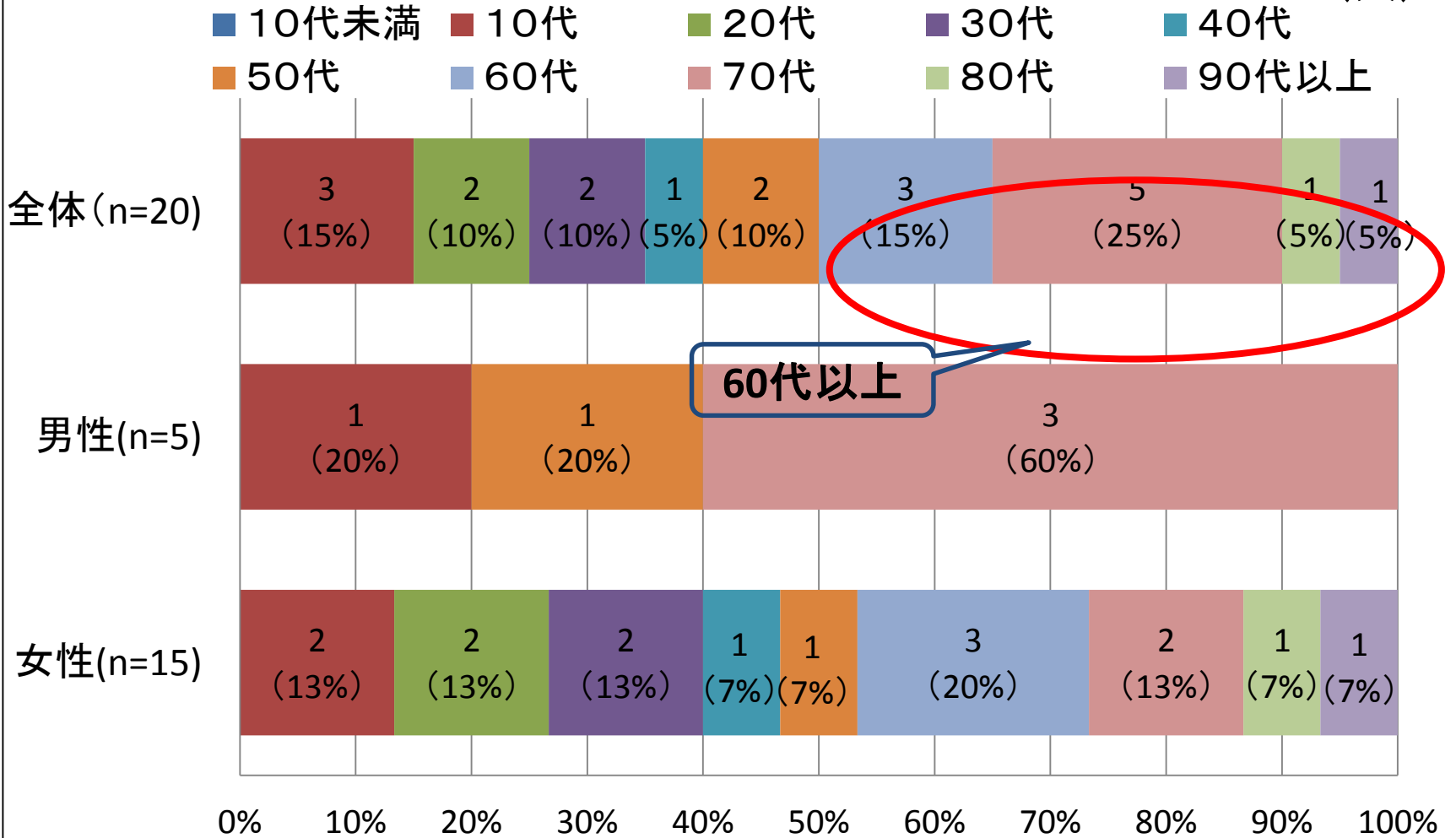
1. ケース数 (n=20) (人)  
■ 男性 ■ 女性



男性が5人、女性が15人となっており、女性75%を占めていた。

## 2. 年代別

(人)

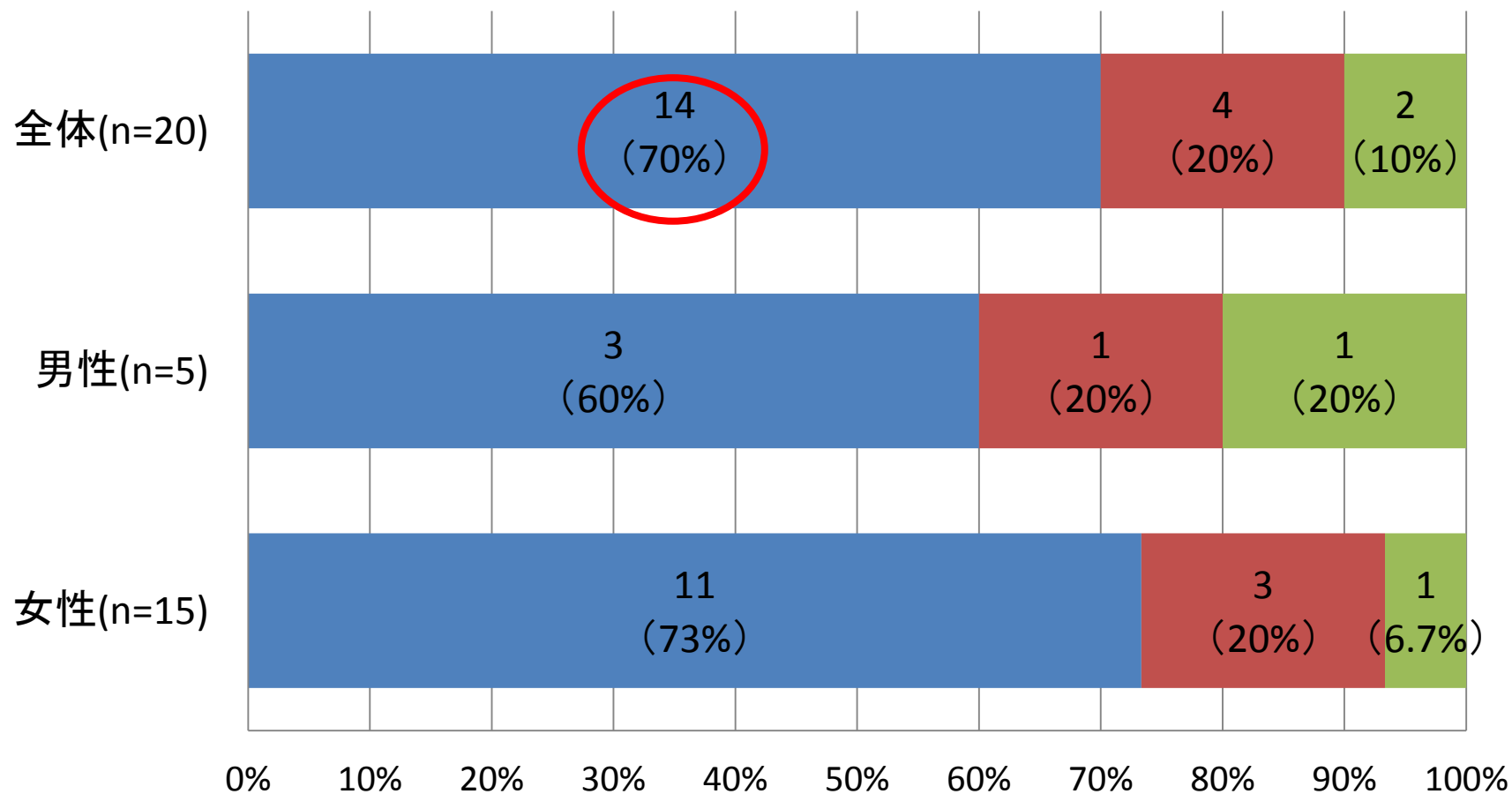


10代以上の全ての世代に自殺未遂者がおり、60代以上が50%を占めていた。

### 3. 同居者の有無

(人)

■あり ■なし ■未記入

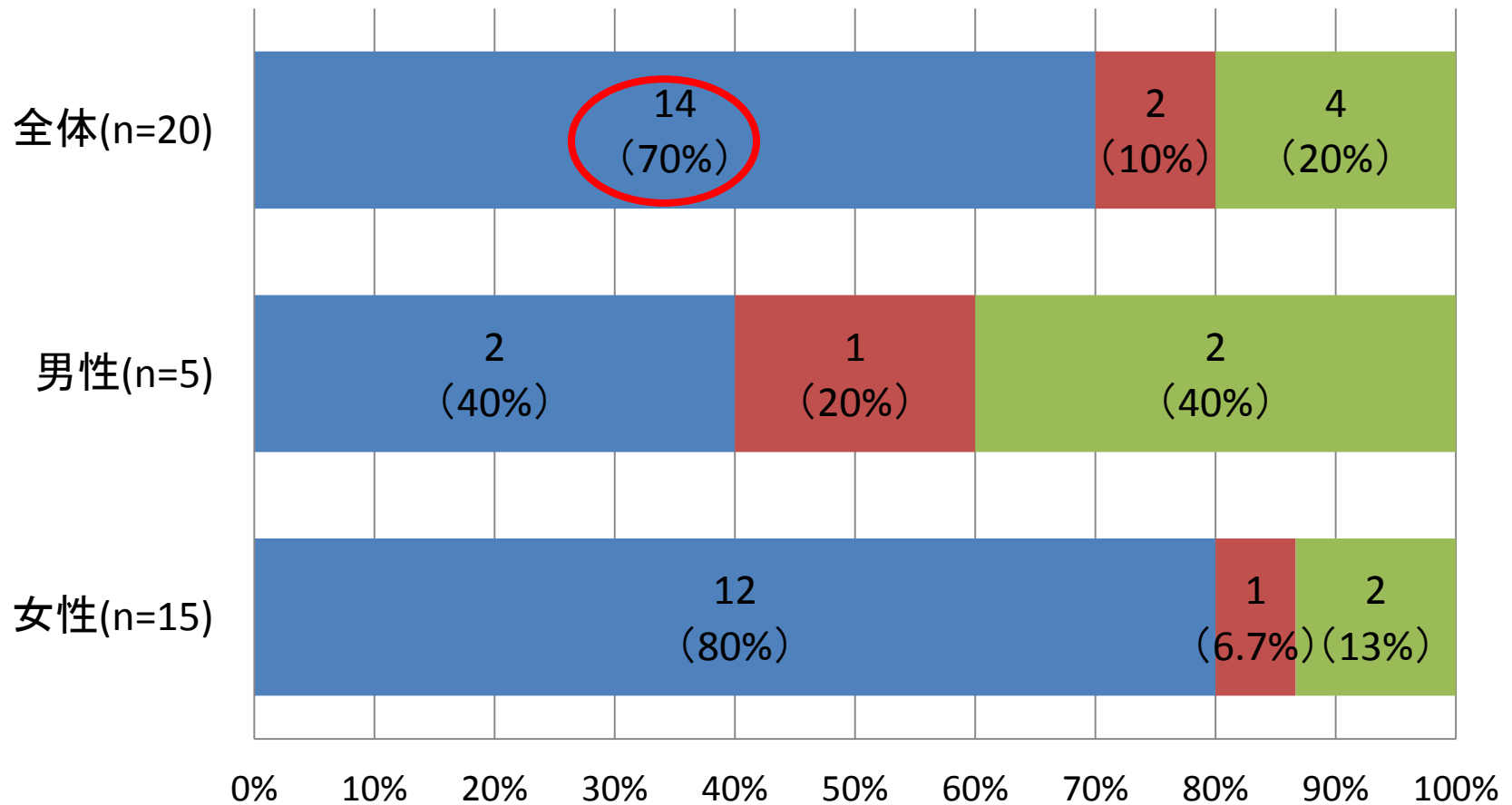


男女ともに、同居者がいる割合が多く、全体では70%を占めていた。

## 4. かかりつけ医の有無

(人)

■あり ■なし ■未記入



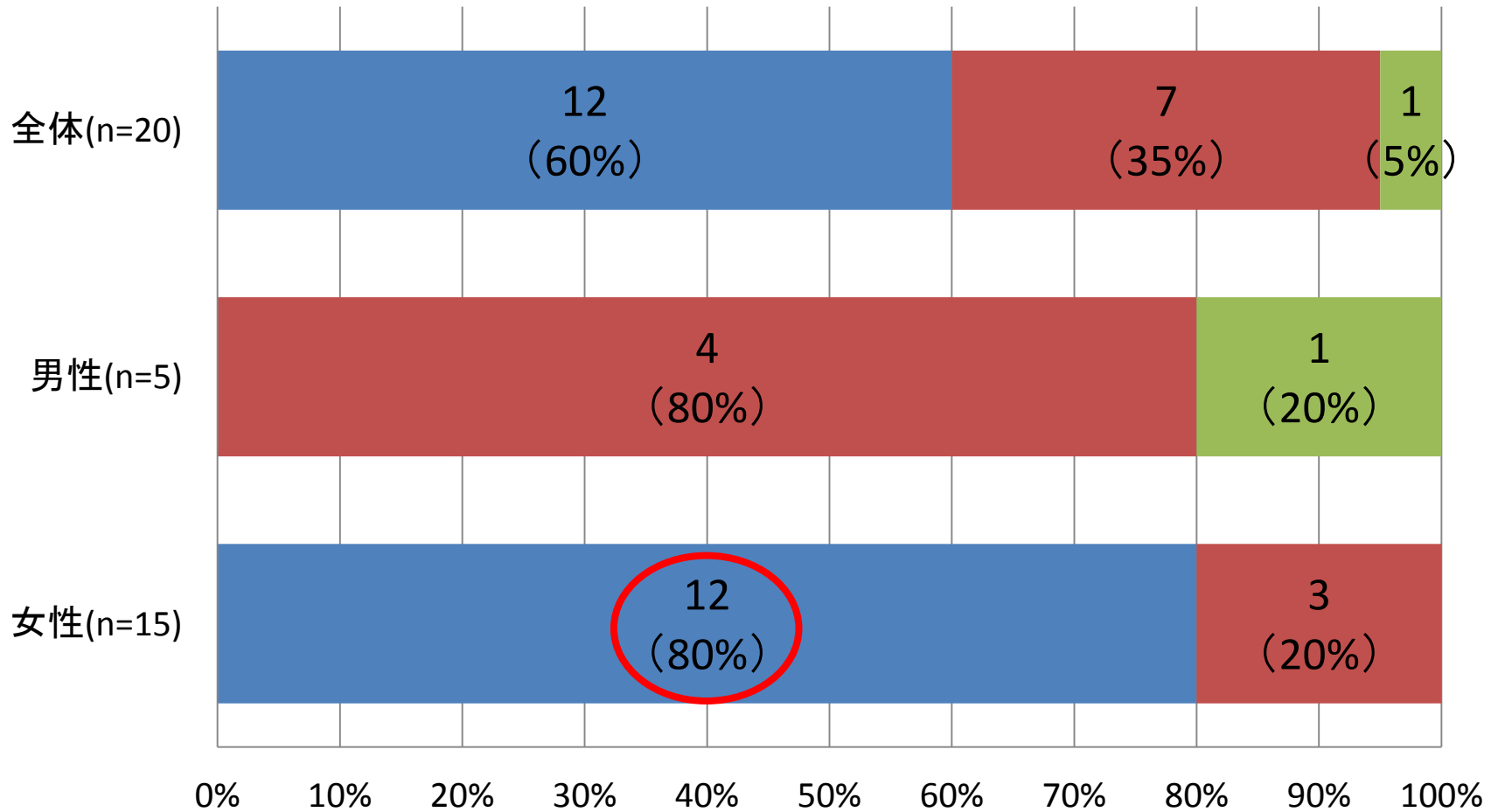
かかりつけ医ありが全体の70%を占めていた。



## 5. 自殺未遂・自傷行為歴の有無

(人)

■あり ■なし ■不明

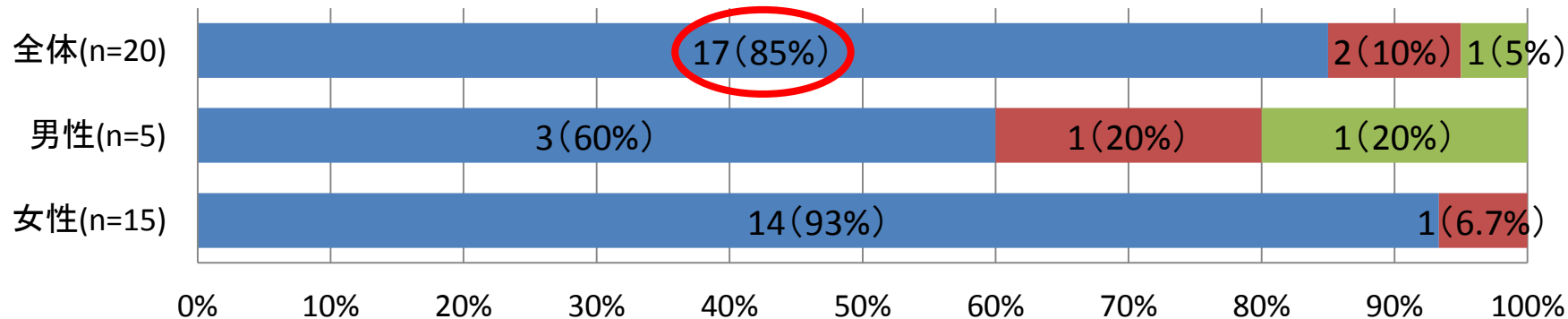


女性では、12名に自殺未遂・自傷行為歴があり、80%を占めていた。

## 6. 保健所保健師支援の説明の有無

(人)

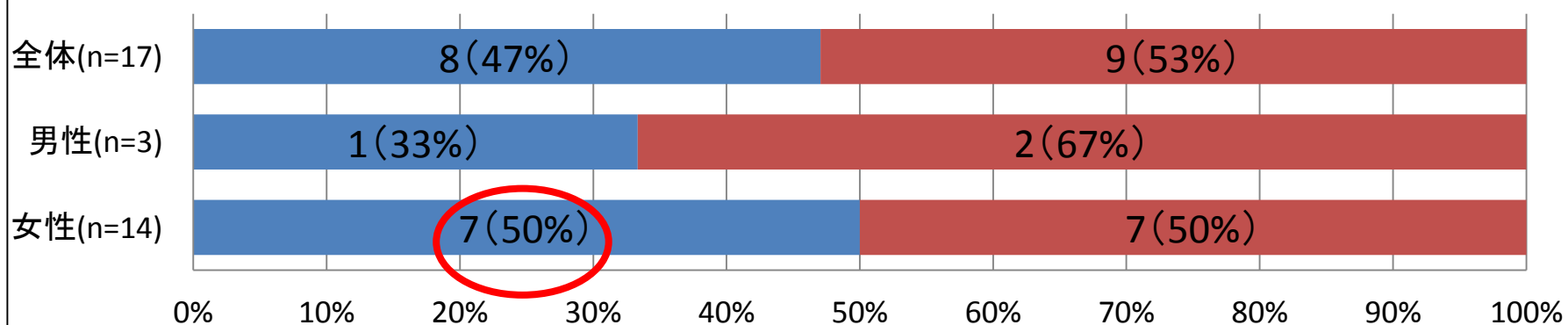
■ 実施 ■ 未実施 ■ 未記入



## 7. 保健所保健師支援の同意の有無

(人)

■ あり ■ なし



- ・救急告示病員職員が保健所保健師支援の説明を行ったのは、17名であり、85%の実施率だった。
- ・本人、もしくは家族が保健所保健師支援に同意したのは、8名(47%)だった。

# 考察

◇女性の80%に自殺未遂・自傷行為歴あり

⇒未遂者への支援の重要性を再認識

◇未遂者のうち60代以上が50%を占めていた

⇒高齢者への支援や対策を重点的に取り組む

## ◇70%が同居者あり

本人

○家族がいても心情を言葉にできず、孤独を感じる

家族

○心理的ストレスが大きい  
○本人への対応に苦慮



### ◎本人・家族に対する支援が必要

(本人・家族)

- ・保健所保健師の相談対応
- ・様々な悩みに応じた相談窓口の紹介

(本人)

・茶のん場等の気軽に足を運び語れる場の紹介

(家族)

・本人への対応方法についての助言

◇70%にかかりつけ医あり

⇒かかりつけ医との連携強化の必要性

### 当保健所での取組

「西諸地域うつ病医療体制強化事業」

目的: 身体科かかりつけ医と精神科医が連携してうつ病の早期発見、早期治療につなげる

【平成29年度実績】

紹介数 93名 受診数 92名

(紹介数: 本人了承のうえ、かかりつけ医から精神科を予約した数)

◎身体科かかりつけ医に対するうつ病医療体制強化事業の更なる浸透に努める

◎身体科医療機関従事者向けの自殺対策に関する研修会の実施

# ◇約50%が保健所保健師支援に同意

## 要因

- 平成29年度～平成30年度  
本事業に係る担当者会  
→事業運用体制の見直し
- 平成30年度  
未遂者支援研修及び情報交換会  
⇒関係者の本事業や未遂者支援  
への理解が深まり、未遂者やそ  
の家族への本事業の説明の徹底  
に繋がった

## 一方で

- 保健所介入の同意が得られ  
なければ、救急隊や救急告示  
病院職員の対応で終了する  
ケースがある
- 未遂者への対応を困難と感  
じる医療機関職員が多い

◎救急隊や救急告示病院職員向けの未遂者支援に関する研修会の実施

# おわりに

今後・・・

管内の未遂者の実態把握を行いながら、  
地域の実情に応じた、未遂者支援を関係  
機関と連携しながら行っていく